

GOOD CARE NURSE



第1号

梅雨も明け、夏本番の季節となりましたが、職員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？ 今年度、看護部では「仲間意識・承認・尊重」がモチベーションの向上に重要であるため、皆さんの日ごろの良いケアや良い取り組みを紹介しつつ、職場の活性化につながることを目指し、「GOOD CARE NURSE」新聞を発行することにいたしました。

この「GOOD CARE NURSE」新聞では、リソースナースや他の医療チームメンバーから看護師の「GOOD CARE」を紹介してもらい、たくさんの看護の「いいね！」を発信していきます。この新聞を通して自部署の活動や取り組みにつなげて頂けたら幸いです。さて、記念すべき第1号は…

2020年8月発行

☆南9階の創傷カンファレンスです☆



創傷カンファレンスの風景

気が付けば、
10年以上、毎週金曜日に創傷カンファレンス
をしています



当院で2017年4月に
発刊

～カンファレンスの様子～

南9階では、毎週金曜日の14時から創傷ケアカンファレンスがあるという事で、取材に伺いました。この日の創傷カンファレンスは、最初は、ストーマ周囲に皮膚トラブルがあり、ストーマパOUCH交換を1日に何回もされていたのですが、2日に1回にしてみようかと皆さんで話されていました。

次に、WOCの渡邊さんからストーマ外来の患者の現状を、写真を見ながら説明されていました。退院した後で、皮膚の状態が落ち着いている写真を見てカンファレンス参加者からは笑顔も見られ、とてもいい雰囲気でカンファレンスが進行されていました。

カンファレンスが終わった後、今回 good care nurse の新聞の第1号に WOC 渡邊さんより推薦されたことや、2年ぶりに南9階病棟に戻ってきた齊藤師長もスタッフみんなのケアレベルが上がっていることに驚いた事を伝えると「嬉しい!! 光栄の一言です!!」と声を合わせて話されていました。

今回取材に伺い、びっくりしたのが14時になると、スタッフが続々とナースステーションに戻ってきたことです。誰かが集合をかけるわけでもなく、自然に集まる姿に改めてカンファレンスが定着していることを実感しました。何よりも2年目看護師さんたちがカンファレンスに積極的に参加している姿が印象的でした。南9階病棟では看護の質向上に向け、責任とプライドを持って看護に携わっているのだと感じました。

Good care nurse 第1回 推薦者

皮膚排泄ケア特定認定看護師

渡邊看護師



今回、南9階を推薦された理由をインタビューさせて頂きました。

南9階病棟は、毎週皮膚排泄ケア認定看護師（以下 WOC）と病棟のスタッフ間で、創傷カンファレンスを行っています。カンファレンスでは、退院指導を行った患者が、退院後、ストーマ外来に来院されます。病棟での退院指導をもとに自宅でのような処置を行っていて、創の状態がどうなっているかという現在のストーマケア情報を、カンファレンスでフィードバックしています。病棟にフィードバックすることで、実践の振り返りとなり、看護の質の向上にもつながっています。南9階のストーマケアのレベルは高くなり、今では他施設の WOC の方から WOC レベルだと絶賛されているようで、関西労災病院のレベルが高くてうらやましがられているそうです。。。

～担当看護師より～

「初めてのプライマリーで、ストーマだけでなくご飯のことやコストのことをとても気にされていたので、その調整などやってきました。もっとストーマの状態をよくしてあげたかったけど」と話されていました。また、「このカンファレンスは、わからないことはみんなで話して解決しています。ここで学んだことが実際の夜勤でも役立つので、勉強のいい機会だと感じています。」

カンファレンスに参加している2年目の看護師は、関西ストーマ研究会の開催している講習会を受けてストーマのマーキングができるようになっているそうです。ストーマ造設は年間100件ぐらいあり、スタッフがストーマサイトマーキングが出来ることで、WOC がいなくても、緊急手術などの時にスムーズに対応できます。



齊藤師長にも

インタビューさせて頂きました。

カンファレンスをして、スタッフの方々の反応はどんな感じかと尋ねると、『実際指導したことを、こんな風に自宅ですべてできているということを通して嬉しい。』『心配していたから良かった』と自分たちが行った退院指導やストーマケアの指導が、自宅でのようになっているかをフィードバックしてもらうことで、次に活かすことができ、質の向上にもつながっていると話してくれました。

今回は9月頃に発行予定です。コミディックスの皆様からの意見をお聞かせください。皆さんからの自薦、他薦は問いません「いいね！」情報をお待ちしています。
発行元：看護部定着活動委員会

